



1. 練習の成果を十分に発揮する。心を一つにしての演奏 / 2. 児童代表で鈴木桜さんが「5年生の頃から練習してきた演奏で、交通安全をアピールできたらうれしいです」とあいさつ / 3. 保原体育館での演奏は、キレのあるダンスも披露 / 4. 沿道から声援を送る保護者。子どもたちの成長に感動

「パレードで伝える "交通安全"」

10月9日㊦、保原小学校6年生96人による鼓笛パレードが行われました。演奏を通じて運転者に交通安全をPRするもので、保原体育館での演奏後に保原町内を行進しました。雨が続き開催を心配する声もありましたが、児童たちの元気が天に通じて無事開催。胸を張って行進する姿に、沿道の保護者からは「子どもたちががんばる姿に心打たれました。悲惨な交通事故をなくすために、大人の私たちが気をつけていかなければいけないと改めて思いました」といった声が聞けました。



市長コラム 第71回

「平和への誓い」

過去の
コラム

須田博行



去る10月8日、市主催の「令和6年度伊達市戦没者追悼式」が執り行われ、戦争で尊い命を失われた戦没者の御霊に哀悼の意を表しました。

先の大戦では、苛烈を極めた戦いの中で祖国の安泰と繁栄を願い、最愛の家族を案じながら戦場に倒れた方々、また、戦後遠い異郷の地で故郷の土を踏むこと叶わず最期を遂げられた方々のご無念とご遺族の深い悲しみに思いを馳せ、二度と戦争を起こしてはいけないと全員で誓った式典でした。

さて昨年、市内中学校の代表生徒がこの追悼式に参列し、献花をしています。身近な人を亡くしたご遺族の話聞いて生徒たちは、「こんな悲劇があったことを私たちがつないで伝えていかなければならない。この追悼式を心にとめて人生を大切に生きたい」、「平和の大切さと命の尊さを学ぶことができ。毎日の『当たり前』を大切に

にしていきたい」。そして国際情勢にも触れ、「今起きている紛争や国際問題などがなくなつて平和な世界になってほしい」など、式典後に書いてもらった感想シートに自分の言葉で綴っていました。

次代を担う彼らは、追悼式への参加という体験を通して、戦争が一人一人の自由と幸せを奪うものであること、そして、この平和を守り続けていくには、先の戦争を風化させることなく語り継いでいくことの大切さを学んだと思います。

現在では、戦後に生まれた世代がこの国の9割近くを占めるようになりました。戦争体験の話聞き、その行為の本質を知る機会が急速に失われていきます。私たちは今を生きる者の使命として、戦争の悲惨さと愚かさを真に理解し、次の世代へしっかりと伝えていかなければならないと式典を通して強く思いました。